

2021
新春
座談会

みんなの意見で みんなにやさしいまちを作ろう

市長と語る、国際交流やまちづくり



自分について一言!

水田 光夏さん

中学2年のときに難病を発症して車いすで生活するようになりました。高校生のときパラリンピック経験者と話す機会があり興味を持ったのが、射撃を始めたきっかけです。2019年の世界選手権で24位となり、日本の出場枠を獲得して代表の内定をいただきました。パラ射撃の醍醐味は、競技の際安定した状態を保つために、自分の身体に意識を集中し、自分自身と向き合う時間が持てること。昨年から社会人になり、新しい環境の中で仕事と射撃に励んでいます。



プロフィール

パラ射撃選手・榎白寿生科学研究所所属
▶東京2020パラリンピック「射撃」の代表に内定
▶2020年パラ射撃全日本選手権優勝(大会2連覇達成)



水田選手への応援メッセージ募集中! 詳細は8面

立本 浩大さん

7~12歳までアメリカに住んでいて、現地の小学校に通っていました。同級生にはイタリア系、インド系、中国系など多様な民族的背景を持つ人がいて、自分とは全く違う価値観に触れ、新たな気づきを得ました。今も世界中の文化を知ることに関心があります。



プロフィール

高校3年生
ユニセフとドイツケルン市主催「子どもにやさしいまち世界サミット2019」日本代表

中学・高校ではサッカー部に所属し、目標達成のために我慢強く努力することが必要ということ、つらいことも楽しいことに変えるということを学びました。

海野 愛乃さん

幼少期の3年間をアメリカで過ごし、さまざまな人種の友だちと触れ合いながら、自分の主張をはっきりと伝えることの大切さを学びました。それがきっかけになり、世界に関心を持つようになりました。最近では、サミットでの経験を生かし、国連のオンラインイベント等で世界の人たちとつながっています。皆、同世代とは思えないほど視野が広く、発想も豊かで、刺激を受けています。今通っている中学校では、生徒会副会長を務めています。趣味はピアノで、弾くと心が落ち着くので、毎日の練習を楽しんでいます。



プロフィール

中学2年生
ユニセフとドイツケルン市主催「子どもにやさしいまち世界サミット2019」日本代表



サミットの様子

市長からのメッセージ 町田市長 石坂 丈一

市では英語教育に力を入れたり、町田創造プロジェクト(MSP)で若者の意見を取り入れるなど、子どもや若者を応援する取り組みをしています。子どもにやさしいまちはみんなにやさしいまちになると思います。これから日本を支えていく若い人たちに、社会全体で支えていきたいですね。



外国の人々との交流で得たものは

石坂 明けましておめでとうございます。水田さんは射撃の選手として、立本さんと海野さんは海外生活の経験やドイツで開催された「子どもにやさしいまち世界サミット2019」への参加で、外国の人々と交流されています。まず水田さんは遠征中、外国の人々とどんな交流をされているのですか。

水田 東京2020大会の開催が決まってからは、海外の選手に話し掛けられる機会が増えました。母国語が英語ではない多くの選手とはお互いに英語でやり取りできるのですが、英語圏の選手とは、スマホの音声通訳機能が役立ちました。これ、意外と会話が弾みますよ。

石坂 立本さんと海野さんはドイツでのサミットで何を感じましたか。

立本 僕と同世代の若者たちが、子どもにやさしいまちのために何ができるかを真剣に考えることに刺激を受けました。意見を組み立てる力や、広い会場で何百人もの人を前にして自分の考えを発表する姿も印象的でした。一緒にケルンの街を歩き回って話した時にはとても楽しくて、彼らの人間性にも引かれました。

海野 私がびっくりしたのは、みんなの意思の強さです。私と年齢が変わらない子どもたちが、自分の目標や、目標の実現に向けて取り組んでいることについて堂々と話をしていました。私も、自らの思いを心に秘めるのではなく、とにかく口に出して、更にそれを着実に実行に移すようにしようと思うようになりました。

いろいろな意見を聞くことが やさしいまちにつながる

石坂 ところで、皆さんが考える「やさしいまち」ってどんなまちでしょうか。

水田 国内外ともにバリアフリーな場所が増えていますが、意外と車いすユーザーにとって不便な所があったりします。例えば滑り止めのポコポコやおしゃれなタイルなどの上を通ると、振動で身体に負担がかかることがあるんです。障がいがある人たちの意見を取り入れることで、皆にとっても暮らしやすい、やさしいまちになるのかなと思います。

海野 町田は東京都でありながら、自然が豊かです。郊外だとよく夕暮キを見かけたりして。田んぼのあぜ道や林道を歩いていると、空気が新鮮で、すがすがしい気分になります。もちろん開発も大切で

が、子どもにとってのやさしいまちは、こうした自然が残っているまちではないでしょうか。

立本 学校の科目でもイベントでもそうですが、選択の幅を広げているまちです。例えば今回の子どもサミットでも、たくさんのプログラムが用意されていて、参加するディスカッションを選ぶことができました。多様なプログラムがあると、興味のあるテーマが必ず見つかるし、視野が広がります。それから、子どもが自分の意見を発信しやすいまちであることも大切だと思います。

石坂 確かに子どもが自らまちに意見を訴えに行くってハードルが高いですね。町田市では「若者が市長と語る会」を開催しているほか、市の事業評価に高校生世代の方に参加してもらっています。若者は発想が自由で、大人では思いつかない意見が飛び出すのが良いところ。それから、水田さんが段差について話してくれましたが、こうして実際に話を聞いて気付くことも多いですよ。いろいろな立場の人の話を聞くこと、それがみんなにやさしいまちへの第一歩なのでしょう。

今後の夢

立本 受験生なので、まずは合格です。大学に入ったら、留学もして更に異文化に触れたいです。今回のサミットで国連機関主催のプログラムに参加して僕自身の可能性が広がったと思うので、将来的には自分が国連に入ってさまざまなプログラムを主催してみたいですね。

海野 外国の方々と話して思うのは、人と人はこんなに仲良くなれるのに、どうして国と国だと利害が生まれて問題が発生してしまうのだろうということです。いろいろな人と協力をしたり、話をしたりしながら、国と国が仲の良い関係を築けるような仕事をしていくことに引かれます。

石坂 水田さんははいよいよ東京2020大会ですね。

水田 パラリンピックは大きい舞台ですがいつも通りに、そして最大限パフォーマンスを発揮し、自己ベストを更新したいと思っています。将来的には、もっと多くの人に射撃競技を知ってもらいたいですね。パラ射撃は若い選手、女性の選手が少ないので、興味を持って始めてくれる人が増えるよう普及していきたいです。

石坂 皆さんのチャレンジを応援しています。そしてその経験を、日本や町田市にフィードバックしてくれたらうれしいですね。